

学生大使プログラム 実施報告書

【氏名，所属学部・学科，学年】

菊地 美希（きくち みき），地域教育文化学部地域教育文化学科異文化交流コース，1年

【派遣先大学，派遣期間】

ベトナム国家農業大学，3月14日～3月27日

【日本語教室での指導方法】

・『みんなの日本語』を用いた指導

ベトナム人学生の進度に合わせて，一回の授業で1～2課進めた。語句の発音練習から始まり，各課の例文を私の後に読むように読み練習をした後，練習問題を自力で解くという流れで行った。中には，例文を読む際に自分でまず読んでみたいという学生もいた。読み間違えたときにはすぐに指摘し，うまく発音ができるまで何度も繰り返し練習をした。

・漢字をメインにした指導

積極的に漢字を学びたいという学生がいたので，まずは「手」や「口」などの簡単に書くことができるもので，かつ体の部位といったその漢字が意味するものを目で見て確認できるようなものを挙げた。単語だけでなく，「口を開ける」「口を閉じる」のような短い文を作る練習も交えた。

・会話をメインにした指導

日本語上級の学生はとにかく会話の実践を積みたい意欲が見られた。そのため，学生が提示してきた「日本で今問題になっていること」や「日本人の特徴」といった話のテーマで，意見を交換した。日本に住む日本人からの視点とは違った，ベトナム人だからこそ気付く部分，また反対に，日本人ならではの感じる部分があり，それぞれの文化的背景を交えながら話を進めた。



【日本語教室以外での現地での交流活動】

日本語教室が終わると，現地の学生とおしゃべりをして，その流れで学校付近の店で食事をした。おすすめの店やメニューを紹介してくれて，これを食べてみてとベトナムの料理をどんどん勧めてくれた。現地の学生は人との距離が近くて，どこか出かけるときには腕を組んだり，手を繋いだり，いつも隣にいてくれた。「好きな人のタイプ」の話をした際

には特に盛り上がった。土日は学生が観光地に連れて行ってくれた。バスの乗降の仕方がわからなかったが、手を引っ張ってくれた。日本への土産にはどれがおすすめなのかを尋ねると、いろいろな店を一緒に巡ってくれた。午後の空いている時間には、広い校内を散歩したり、スイーツを食べに行くことが多かった。現地の学生とは過ごす時間が長くて、すぐに打ち解けることができた。

【プログラムに参加した感想】

今回このプログラムに参加して、自分が持つ日本や日本語についての知識がまだまだ足りないことに気付かされた。学生からの質問で、「子どもらしい」「子どもっぽい」「子どもみたい」の使い方の違いはなにかと問われたことがあった。「うちの子には子どもらしく元気に育ってほしい」という文にはなぜ「子どもらしい」なのか、残り2つのものでは代用できないのか。いつも当たり前のように使い分けをしていたけれども、日本語が母国語ではない人が初めて見たら、全て同じことを意味する言葉に思えるのだと思った。微妙なニュアンスの違いを説明したくても、それをすらすら行うことができなかった。そのときに、私もそれらの違いをきちんと理解していないことに気付いた。私もわからないから説明ができないのだと思った。現地の学生に、日本人なのにわからないんだねと言われたことがあった。自分の国のこと、自分のことなのにうまく答えられないということが恥ずかしいと感じたのは、初めてのことであった。自文化を知るといことがどんなに大切か、身を持って感じることができた体験だった。

【自分の目標の達成度や努力した経緯など】

今回私は渡航前にこのプログラムを遂行するにあたって、現地の学生が今後何らかの形で日本と繋がりを持つ小さなきっかけを作る、という目標を設定した。結果から言うと、十分満足できるほどには日本のことをたくさん伝えることはできなかった。けれども、数多くの学生が日本に行きたいという気持ちを、より高めてくれたと感じている。具体的には、日本の四季や四季折々の行事、日本の名所といったものを画像で示しながら話を広げた。学生は強い興味を示してくれ、またそれ以上に自ら日本で訪れたい場所を見せてくれたりもした。私が日本とのきっかけ作りをしたというよりは、現地の学生がすでに自分から日本と関わりを持つ一歩を踏み出していたのだと思った。日本のアニメやドラマも積極的に見ていて、これとてもおもしろいのと、むしろ私が教えてもらうくらい現地の学生が詳しかったことにはとても驚いた。日本語の歌詞を歌えるようになりたいから、日本語を勉強しているという学生もいた。ネイティブというのが私の強みで、交流を通じたことで、日本に対するイメージをより膨らませることができたのではないかと感じている。

【今後の展望】

今回のプログラムを通して、言葉の壁の大きさを感じた。日本語を教えるために英語を

交えて説明するにも、言葉の選択を間違えたら学生が異なる意味で覚えてしまうので、注意が必要だった。もっとボキャブラリーを増やして臨むべきだと思った。またテキスト通りに淡々と進めるのは学生も退屈してしまうのでゲームを交えながらできればよいと思う。

